

| | | |
|---|--------|-----|
| 科目名称： | デッサン I | |
| 担当者名： | 本山 二郎 | |
| 区分 | 授業形態 | 単位数 |
| 専門教育科目 | 演習 | 1 |
| 授業の目的・テーマ | | |
| デッサンで大切な要素は『見えることを理解すること』である。我々の日常に見える世界は『3次元の色彩が満ち溢れた世界』だが、デッサンではそれを『2次元の白黒で描かれる世界』に変換する力の修得が必要となる。それを、デッサンの基本4要素（グレースケール・コントラスト・パース・コンポジション）に分解して理解を深め、デッサンの基礎的な描写力の修得を目指す。この力の修得が、今後の様々な制作活動の基礎力につながるように課題を展開する。 | | |
| 授業の達成目標・到達目標 | | |
| デッサンは、3次元の成り立ちと支持体（画用紙など）や描画素材（鉛筆など）の特性を理解して表現できる技術の修得が重要であり、基礎的なデッサンの考え方の理解と描写力を身につけることを目標とする。授業は、毎回掲げられる学習ポイントを事前に理解し、画用紙に鉛筆デッサンで理解したことを描写することで展開する。課題が完成したら提出し、講評を行うことで達成度を確認する。 | | |

| 美術学科 | ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針） | 重点項目 |
|-------|--|------|
| DP(1) | 建学の精神と設立の理念を基に、主に基礎教育科目により、基礎知識を修め幅広い教養を身につけ、多様な文化や考えに対応できる。 | |
| DP(2) | 主に専門科目により、美術に関する理解を深め豊かな表現力を身につけ、社会の一員として貢献できる実践力を身につけている。 | |
| DP(3) | 多様な社会に対応できるように、自己表現を深化させながらも他者の意見を尊重し、様々な表現を受け入れる豊かな人間性をもっている。 | |
| DP(4) | 様々な課題に取り組み、応用力と創造力を身につけて、その中から自己の個性を磨き表現できる。 | ○ |

| 評価方法/ディプロマポリシー | 定期試験 | クイズ 小テスト | 提出課題 (レポート含む) | 積極性・探究心 | 合計 |
|----------------|------|-------------|------------------|---------|-----|
| 美術DP(1) | | | | | 0 |
| 美術DP(2) | | | | | 0 |
| 美術DP(3) | | | | | 0 |
| 美術DP(4) | | | 80 | 20 | 100 |
| | | | | | 100 |

| 実務経験のある教員の担当 | 担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載） | |
|--------------|--------------------------|---------|
| あり | 《内容1》 | 《経験年数1》 |
| | 《内容2》 | 《経験年数2》 |
| | 《内容3》 | 《経験年数3》 |
| | 《内容4》 | 《経験年数4》 |

| |
|----|
| 備考 |
| |

| 到達目標ルーブリック | すばらしい | とてもよい | よい | 要努力 |
|------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------|-----------------------------|
| 授業への意欲 | 課題の内容を理解して積極的に実習に取り組む | 課題の内容を理解して興味を持って取り組む | 課題の内容を理解できるように努力する | 課題への理解と興味が低く、意欲的な取り組みが不足 |
| 表現方法の熟達 | 画材の特性を把握し、表現方法に見合った使い方ができる | 画材の特性を理解し、表現方法に見合った使い方を工夫する | 画材の特性に興味を持ち、適切な使用を試みる | 画材への理解が低く、表現に活用する工夫が足りない |
| 研究する姿勢 | 事前に課題への知識と準備を整え、自己の課題を明確にする | 事前に課題への理解を深め、準備を整えている | 事前に課題への準備を整えている | 事前学習が出来ておらず、課題の知識と準備が不足している |
| 作品の完成度 | 表現を工夫した高い描写力で完成している | 意欲的な描写で取り組み、完成している | 適切に描写し、完成している | 意図を理解出来ておらず、十分な完成がみられない |

| 授業の内容・計画 | 事前事後学修の内容 | 事前事後学修時間(分) |
|--|---|-------------|
| 第1回 デッサン要素(パース、コントラスト、グレースケール、コンポジション)理解/描画材料の理解(紙と鉛筆)/肩で描く直線練習 | 鉛筆の特性を理解し、肩で直線が描けるように練習を行うこと | 40分 |
| 第2回 グレースケールの理解 【実習：グレースケールの作成】 | 宿題：【グレースケール13階調を完成し理解すること】 | 120分 |
| 第3回 コントラストの理解 【実習：コントラストによる遠近法理解、キュービック表作成】 | 宿題：【後景と前景(コントラストの理解)を完成し理解すること】 | 120分 |
| 第4回 グレースケール・コントラストの理解 【実習：キュービック表作成】 | 宿題：【キュービック表】を完成し、コントラストの違いによる表現について理解を深めること | 120分 |
| 第5回 パースペクティブの理解 【実習：ティッシュボックスの輪郭を描く】 | 宿題：さまざまな立方体を角度を変えてパースペクティブを意識して輪郭で描く | 120分 |
| 第6回 デッサン実習① 【実習：紙コップを描く】 | 宿題：紙コップをさまざまな角度からデッサンを描く | 120分 |
| 第7回 デッサン実習② 【黒、白、グレー5段に塗られた円柱をデッサンする①】 | グレースケール・パースの違いに気を付けながら、明度域の使い分けを理解しておくこと | 120分 |
| 第8回 デッサン実習③ 【黒、白、グレー5段に塗られた円柱をデッサンする②】 | 宿題：【ボーダー円柱デッサン】を完成させること | 120分 |
| 第9回 デッサン実習④ 【ティッシュボックスを描く①】 | パースペクティブの狂いに注意しながらデッサンの輪郭を完成させる | 120分 |
| 第10回 デッサン実習⑤ 【ティッシュボックスを描く②】 | 光の方向、グレースケール、コントラストに気を付けながらデッサンを完成させる | 120分 |
| 第11回 コントラストによる質感描き分け① | コントラスト、色面の変化を捉えながら素材特性を理解すること | 120分 |
| 第12回 コントラストによる質感描き分け② | 宿題：【円柱質感描分デッサンの完成】 | 120分 |
| 第13回 モチーフ3点を組み合わせてのデッサン① (ティッシュ箱1箱、ボーダー円柱、想定立方体) | コンポジションを工夫しながら、エスキース(下絵)を数枚描き構図を決める | 120分 |
| 第14回 モチーフ3点を組み合わせてのデッサン② (ティッシュ箱1箱、ボーダー円柱、想定立方体) | パース、コントラスト、グレースケール、コンポジション、光の方向に気を配りながらデッサンを描き進める | 120分 |
| 第15回 モチーフ3点を組み合わせてのデッサン③ (ティッシュ箱1箱、ボーダー円柱、想定立方体) / 講評グループディスカッション | 宿題：【3品モチーフデッサン】を完成させること。 | 120分 |

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までに課題を完成し、理解を深めておくこと。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
各課題終了時に設定された提出日に全ての課題を提出することが、単位修得の必須条件である。この完成度、理解度を課題から判断し、80%で評価する。また、積極的な制作および課題探究内容を20%で評価する。

課題に対してのフィードバック

課題は、目標を理解した上で制作に取り組み、完成後の講評会にて自身の習熟度と達成度を確認し、学修理解の定着を図る。

教科書・参考書

《【鉛筆デッサン基本の「き」】 スタジオ・ものくろーむ著 株式会社ホビージャパン発行》
教科書は、各課題制作時の目標を確認するための視覚資料として活用する。
各実習内で配布するテキスト